

## 歴史的な南北首脳会談の成功を心から歓迎し、 ともに平和な北東アジア実現へ全力をあげます

2018年5月2日 新日本婦人の会会長 笠井貴美代

4月27日、世界中が注目した韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領と、北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長的首脳会談は、朝鮮半島と北東アジアの平和への歴史的な第一歩となりました。同じ言葉で話す2人の姿に、同じ民族でありながら長く分断された悲劇、その背景にある日本の植民地支配、数百万人の犠牲者を出した朝鮮戦争、東西冷戦下での大国の介入の歴史を思わずにはおれませんでした。戦後史の画期的なこの動きを心から歓迎し、さらに米朝会談の成功へと前進することを強く期待します。

首脳会談では、完全な非核化を通じて核のない朝鮮半島を実現すること、1953年から休戦状態にある朝鮮戦争を年内に終結し、平和体制構築のため南北米または南北米中の会談を開催すること、民族的和解と平和繁栄の新たな時代へ南北関係を発展させることを「板門店宣言」として合意しました。

この合意が実現するなら、北東アジア情勢は一変し、いよいよ「カヤの外」の安倍政権の日本外交が問われます。北朝鮮の脅威をあおって対話を否定し、それを口実に「戦争する国」へ戦争法や共謀罪法、沖縄の新基地建設、日米一体の軍事演習や大軍拡を強行し、緊張激化を招いてきたことの根本的見直しが迫られます。また、朝鮮半島の非核化は、世界が核兵器禁止条約の発効へとすすむ契機としなければなりません。日本政府にとって、拉致問題の解決や日朝国交正常化など、侵略戦争と植民地支配への真摯な反省なしに事はすすまず、憲法9条に基づく平和外交戦略への転換が待たなしです。

新日本婦人の会は1962年の結成当初から北東アジア軍事化の日韓会談に反対し、今も日本軍「慰安婦」問題の早期解決を求め、朝鮮半島の平和と固く連帯してきました。韓国では100万人が参加する「ろうそく革命」で腐敗した前政権を打ち倒し、今日の変化をつくりだしてきました。私たちは、一日も早く安倍政権を退陣に追い込み、改憲を許さず、9条が輝く、核兵器のない平和な日本と北東アジアをつくるため全力をあげます。